

レビューシート（指標点検型）

様式 2

レビュ-項目 (事業名)	ものづくり中小企業におけるDX実践モデル事業	部（局）	産業労働部					
		所管課	地域産業立地課					
		担当班	ものづくり支援班					
		連絡先	078-362-3373					
開始年度	令和7年度	終了年度	令和9年度	関連計画等	-			
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					実施主体等	兵庫工業会	
事業目的	中小企業がDXアドバイザーの指導・サポートのもと実践するDXの取組手法を、モデル事例として広く普及することで、中小企業のDXを促進。							
事業概要	①モデル事例の創出 中小企業からDX実践チャレンジ企業を選出し、DXアドバイザーからの助言・サポートをセミナール形式で受けながらDXを実践する。 ②DX実践手法の普及 上記活動に外部企業もオブザーバーとして参加し、DX実践プロセスを共有する。また、実践記録を作成・配布することで、県内企業へのDX実践の普及を図る。							
令和7年度 当初予算	8,612 千円	(国庫)	4,306 千円	(特定)	0 千円	(起債)	0 千円	(一般) 4,306 千円
評価指標	指標名	6年度 見込	7年度 目標	8年度 目標	最終目標 【年度】	設定の考え方		
価値	成果指標(アウトカム指標①) モデル事例創出数(社)	-	2	2	2 【R9年度】	近畿経済産業局で実施された「DXセミナール」事業実績 (R5・6) 並		
	成果指標(アウトカム指標②) 事業参加数(社・団体)	-	20	20	20 【R9年度】	モデル事例創出1件につき10社の参加を想定		
	成果指標(アウトカム指標③)							
指標	活動指標(アウトプット指標①) モデル事例集の周知先団体数	-	50	50	50 【R9年度】	県内の主要な商工関係団体数		
	活動指標(アウトプット指標②)							
	活動指標(アウトプット指標③)							
終期設定	(有) (令和9年度)							無
改善基準	成果指標達成率50%未満で見直しを検討							
外部委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業のDXが進まない最大の要因は「トップの意思決定不足」とよく言われる。手法が分からずから実践できないのではなく、トップへの周知が足りていないという課題感を持っていただきたい。ボトムアップでは限界があり、経営層への直接的な働きかけが必要である。 成功事例を生むにはまず数を集めることが重要であるため、成功・失敗事例を蓄積し、横展開につなげはどうか。 現在のモデル企業は規模が大きく、他の中小企業が真似しにくい可能性があるため、より小規模な企業を対象にした事例づくりにすれば、数はおのずと増えるのではないか。商工会議所などの訪問説明やセミナー開催が効果的ではないか。 モデル事業で対象になった企業がどれだけ生産性が上がったのかが最終的なアウトカムになるため、モデル企業の生産性向上の数・割合をアウトカム指標として設定してはどうか。チャレンジ企業・オブザーバー企業のDX実践状況を追跡し、できる範囲から成果を把握してはどうか。 成功企業を「DX伝道師」として認定し、他企業への啓発役にしてはどうか。経営者同士で横展開することが効果的である。 SNS活用による好事例の広報は、特にモデル事業であることも踏まえ有効であるように感じる、好事例が生まれたら、それをまたさらにSNSで宣伝するというような好循環を作っていただきたい。 「周知先団体数」ではなく、「訪問説明回数」や「セミナー開催数」など、具体的な行動を指標化してはどうか。 							
見直し結果								